

令和2年度第1回尾張旭市総合教育会議 会議録

1 開催日時

令和2年6月24日（水）午後4時から午後4時40分まで

2 開催場所

尾張旭市役所3階 講堂2

3 出席者

市長 森 和 実

教育長 河 村 晋

教育委員 山 本 真依子

教育委員 伊 藤 智 成

教育委員 大 岩 裕 泰

教育委員 堀 祐 子

4 傍聴者数

1名

5 出席した事務局職員

教育部長 三 浦 明

教育行政課長 田 島 祥 三

教育行政課長補佐 加 藤 貴 之

企画課長 山 下 昭 彦

企画課主事 後 藤 拓 哉

管理指導主事 川 本 幸 則

指導主事 寺 田 泰次郎

企画部長 若 杉 博 之

企画課長補佐 齋 場 智 充

6 議題

尾張旭市立旭小学校及び西中学校の増築について

7 会議の要旨

企画部長

定刻となりましたので、ただいまから「令和2年度 第1回尾張旭市総合教育会議」を開催させていただきます。

開催に先立ち、あらかじめ御了解いただきたいことを、2点御説明させていただきます。

まず1点目として、当会議につきましては、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の規定により、「公開の対象」とするとともに、会議録作成のため、会議中の発言を「録音」させていただきます。

次に2点目として、当会議は、市長と教育委員会が十分な意思疎通を図り、本市の教育の課題や、あるべき姿を共有し、連携して教育行政を推進することを目的としております。

このため本日も、関係する議題を提出しておりますので、ぜひ忌憚のない御意見をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

はじめに、資料の確認をさせていただきたいと思います。

（資料を確認）

	それでは、早速「次第」に沿って、会議を進めさせていただきます。 なお、今後の進行につきましては、市長が務めますので、よろしくお願いいたします。
市長	改めまして皆様、こんにちは。本日は新年度に入ってから最初の会議ということで大変御多忙の中、御参加いただき誠にありがとうございます。 また、日ごろから教育行政だけでなく、市政全般の推進にも多大な御尽力を賜りまして、厚くお礼を申し上げますとともに、今回の新型コロナウイルスの関係では、何かとお世話になり、重ねて感謝を申し上げる次第でございます。 さて本日は、「尾張旭市立旭小学校及び西中学校の増築について」を議題としております。 この議題を通して、皆様と様々な意見交換をさせていただき、今後の教育行政や、市政の推進に活用させていただきたいと思いますので、是非ざっくばらんに、忌憚のない意見をよろしくお願いいたします。 それでは、早速議題に移りたいと思いますので、事務局から説明してください。
事務局 (教育行政課)	それでは、「尾張旭市立旭小学校及び西中学校の増築について」、教育行政課から説明させていただきます。 本市の児童生徒は、市全体では、減少傾向にありますが、学校ごとでは、旭小学校と西中学校において増加することが見込まれています。 旭小学校の児童数は、右肩上がりで増加する予測となっています。具体的な人数としては、令和元年度の422人から令和7年度の538人へと、プラス116人、27%の大幅な増加が見込まれます。 また、児童数の増加に伴い、クラス数は、令和元年度の15から令和7年度の19へと4クラス増加となります。 旭小学校の教室等は全部で29室あり、普通教室が15室、特別教室等が14室で、特別教室等のうち普通教室への転用が可能なものが1室あります。 つまり、普通教室15室と転用可能な1室の合計、16室が普通教室として使用できる上限数であり、推計では令和5年度に学級数が17クラスとなるため、普通教室が不足するものです。 なお、児童増加の要因としましては、やはり北原山土地区画整理地

内での人口増が目立ち、北原山町の就学前児童の増加は、市内でも突出した伸びが見られます。また、開発事業の影響により、西大道町、北山町でも増加が見られます。

次に、西中学校の生徒数は、令和4年度がピークとなります。具体的な人数としては、令和元年度の690人から令和4年度の796人へと、プラス106人、15%の増加が見込まれます。

生徒数の増加に伴い、クラス数は、令和元年度の22から令和4年度の24へと2クラス増加になり、転用可能な1室ありますが、令和4年度には普通教室が不足します。

また、西中学校は他の中学校と比べると、特別教室が少なく、これは少人数教室を確保できないなどの課題がありました。また、別棟に「金工木工室」がありますが、老朽化等の改善が必要となっています。

課題としましては、旭小学校では令和7年度に普通教室が4クラス必要になること。西中学校では、少人数授業等の多様な授業の実施に支障をきたしていることや、同一学年が分散配置になる等の支障をきたしていることがあります。

これらの課題につきましては、既存の施設で対応するのではなく、学校施設を増築することで対応することとしています。

増築のコンセプトにつきましては、「尾張旭市教育振興基本計画」の基本施策の達成を念頭に置いて定めております。

まず旭小学校は、「環境教育の推進」として内装の木質化。「地域との連携・特色ある学校づくり」として、地域交流ゾーンや芝生広場との連続性のほか、避難所となる体育館との連携を考慮した特別教室の配置。そして「教育環境の整備」として、増築棟へ特別教室を移動することによって、校舎側に6教室分の普通教室を増設します。

次に西中学校は、「道徳性・社会性の向上」として、相談室を増設。「確かな学力の育成、教職員の資質向上」として、研修室や会議室の整備。「現代的な課題に対応した教育の推進」として、多目的室等の整備。「個に応じたきめ細やかな指導の充実」として、少人数教室の整備。「教育環境の整備」として南校舎に増築することで、学年ごとの一体配置を可能にし、普通教室に加えて、少人数教室と相談室を合わせて4教室分増設します。

スケジュールとしては、旭小学校・西中学校ともに、今年度、設計を実施中で、令和3年度に工事、4年度に供用開始を目標に進めてまいりますので、是非、今回御意見をいただけたらと思います。

説明は、以上となります。

市長	ただいま御説明しましたとおり、旭小学校では、人口の増加に伴い、児童数が増加し、今後、継続的に普通教室が不足することが予想されております。 また、西中学校では、以前から教室数に余裕のない状況が続いており、特に特別教室が少ないため、少人数指導等に支障を来しています。 このため、それぞれの学校の増築に向けた準備を、現在進めております。 これは単なる「児童生徒の増加のため」ではなく、「尾張旭市教育振興基本計画に掲げた基本施策の達成のため」の増築としております。 長期戦が予想されている「新型コロナウイルスへの対応」で、財政的には余裕はありませんが、「こどもは宝」のもと、市民の理解を得ながら、増築工事の予算を計上していきたいと考えております。 なお、6月4日に授業が再開しましたが、その際、旭丘小学校、東栄小学校、三郷小学校、旭小学校、東中学校を視察してまいりました。 先生方が机を交互に配置したり、特別教室で授業を行ったりするなど、工夫を凝らして感染症対応をしておられました。 中学3年生にもなると体が大きくなるためか、東中学校では窮屈な感じを受けました。そうした中、今回の増築のタイミングは良かったのではないかと考えておりますが、委員の皆様から、御意見をお聞かせいただきたいと思います。
大岩委員	旭小学校の増築のコンセプトに「木質化」等が掲げられていますが今回増築する旭小学校と西中学校で、新型コロナウイルスの消毒に関連して取り組んでいるような対策はありますか。 換気などの設計において、ソーシャルディスタンスの観点で、今までとは違った新たな着眼点等があれば、教えていただきたいと思います。
事務局 (教育行政課)	まだ設計段階にありますが、子どもたちが使っている机の規格は、新JIS規格で大きくなっています。既存の普通教室では若干手狭になるので、増築に合わせて教室の大きさ等も見直したいと考えております。 また、本市ではエアコンを普通教室に設置しておりますので、増築部分にもエアコンを設置していきたいと考えています。

大岩委員	エアロゾル感染の可能性があるため、エアコンだけでは教室内に感染を広げてしまう可能性があります。常時換気できるような24時間換気システムだけではなく、風が通る自然換気の併用がよいと言われておりますので、新しい教室では、エアコンと併用し、常時自然換気ができるようなシステムを実現して欲しいと思います。
堀委員	新型コロナウイルスの影響でオンライン化が進むなど、随分世の中が変わったと思います。 その時々に応じた対応ができるように、子どもたちが希望を持てるような、また遠隔でも学習できる指針で、新しい学びに目が向けられるようなものが入り入れられるといいと思います。
事務局 (教育行政課)	具体的な案は持ち合わせておりませんが、ただいまの御意見を設計の参考にしたいと思います。
伊藤委員	大岩委員の意見に関連しますが、現在の設計内容をコンセプトから考え直す必要があるのではないかと思います。 私の仕事に関する話ですが、新型コロナウイルス感染症が拡大しなければ、この4月から建築を着工する予定だった計画が、半年間設計期間をずらして練り直すことになりました。 増築までの期限が決まっているので難しいかもしれませんが、今後、新型コロナウイルスのような感染症が流行したときには、もう「想定外の話」とはなりませんので、「想定内」として対応できるような教室づくりが必要だと思います。 そうしたことから、設計業者と一緒にコンセプトを見直すべきではないかと思います。
事務局 (教育行政課)	いただいた御意見を参考に設計したいと思います。
伊藤委員	先程の教育委員会や、今回の市議会でも答弁があったように、体育館にエアコンを設置する等の考えもあるようですが、せっかく増築するのであれば、避難所に関わることもありますので、今回対応していただけたらと思います。 費用が必要になるかもしれませんが、きめ細かく対応していただけたらと思います。

山本委員	「木質化」ということは、渋川小学校のような木造で増築するイメージでしょうか。
事務局 (教育行政課)	構造として木造ということではなく、例えば教室の中の腰壁に木を使うなどといったように、内装での活用を考えています。
山本委員	学校を見学した際に、アレルギーの関係もあるので、ほこりの掃除をこまめに実施する必要があると感じました。 コロナ対策や換気も大事ですが、子どもたちの手が届かない範囲の掃除を、どう対応するののかも考える必要があると思います。 予算に限りがあるので、「あれもこれも」はできないと思いますが、新しく増築することだけを考えるのではなく、環境を整えるという意味でも対応する必要があると思います。 なお、先程、机のサイズが大きくなるとのことでしたが、既存の教室も新しいサイズになるのでしょうか。
事務局 (教育行政課)	机の更新は全て終わっており、既に大きいサイズとなっています。
山本委員	その場合、以前より教室は、少し狭く感じるということでしょうか。
事務局 (教育行政課)	以前に比べ、机の間隔は狭くなっていると思います。
教育長	建築した時代によって、小学校と中学校の教室のサイズは変わっていますが、最近の教室のサイズは大きくなってきています。「中学校だから大きい」とか、「小学校だから小さい」といったことはありません。 小学校だと1クラス30人、中学校だと35から40人ですし、体も大きく、圧迫感も出てくるので、その辺りも教室に余裕があるように感じたり、手狭に感じたりするのかもしれません。 旭小学校は、市の施策や街並みの整備等によって、人口の増加が予想され、普通教室の補充は待ったなしの状況にあります。 西中学校は、令和4年度に1学級が不足しますが、この状態を見過ごすことはできません。既に特別教室の余裕がなく、転用できる教室がないことや、もともと特別教室の数が他の中学校より7～8教室少ないことから、生徒数が減る見込みではありますが、旭中学校や東中

	学校と同じレベルの教育環境に近づけるためにも、増築が必要になります。 また、旭小学校では、増築後に長寿命化の大規模改造工事を実施する時期が到来します。今回の増築工事に合わせて、大規模改造工事も実施できれば良いのですが、児童が居ながら工事をすることはできません。 今回の増築のコンセプトを継承した上で、大規模改造工事を計画することになりますが、そうすれば、環境を重視し、コロナ対策等にも対応した校舎を計画することができます。 西中学校では、増築した部分での普通教室や少人数教室、相談室の配置を検討する必要があります。なお、西中学校での大規模改造工事は、もう少し先になりますので、それとの調和を図りながら、先を見据えて整備する必要があると考えています。 ただ、市内の中学校の中で唯一、トイレの改修もできていないので、優先度を考えながら計画し、整備していきたいと考えています。 中学校は教科別授業で、特別教室を活用して授業を行う関係上、特別教室を無くすことは非常に大きな弊害があります。他の中学校と同等の教育環境を整えることを、教育委員会や市の方針として位置づけ、整備を進めていきたいと思っています。
市長	旭小学校では、芝生広場の一部を利用して増築することになっていますが、地域の方は芝生広場を使用していますか。
事務局 (教育行政課)	地域の方に芝生広場の管理をお願いしており、非常に大切に、きれいに使っていただいています。
教育長	学校の増築に関しては、いろいろな所から指摘をいただいております。特に古い時代を知っている方からは、「以前はもっと子どもが多かったじゃないか。それでも対応できていたじゃないか」等の話をいただきます。 本市で一番子どもが多かったときは、小中学校合わせて9,500人ほど在籍していました。子どもが減る中で、「昔は対応できていたのに、なぜ今対応できないのか」という話もよくお聞きします。 それは、学級編成の方針が異なっていたり、机が小さかったり、特別教室の活用があまりなかったりといった理由によるものですが、このように教育環境が変わってきていることを、皆様に御理解をいただかないといけないと考えています。

	現在の環境に合わせた教育がなされていることを十分理解していただけるように、今後は教育委員会としても説明をしていく必要があります。
市長	他に御意見はいかがでしょうか。 それでは、旭小学校と西中学校の増築につきましては、ただいまの御意見を踏まえながら、今後対応していきたいと思います。 それでは、次第の3「その他」に移りたいと思いますが、事務局から何かありますか。
事務局 (企画課)	事務局からは特にありません。
市長	先日、各小中学校の様子を見てまいりましたが、旭丘小学校の校庭の樹木が、きつく剪定されておりました。また、6月議会では、瑞鳳小学校の樹木を伐採したことに対して、児童が残念がっていたとの質問がありました。 樹木の剪定方法については、考え方を改めたほうが良いのではないかと思いますでしょうか。
事務局 (教育行政課)	昨年度、成長しすぎて剪定できなくなった樹木や、枯れてしまって台風などで倒れる恐れがあった樹木を伐採しました。 日常的に剪定をする等、きちんと管理できていれば、そのような状況にはならなかったと思いますので、今後は樹木の管理を委託するなどの対策を考えていきたいと思います。
市長	瑞鳳小学校に隣接する大塚公園でも、樹木が大きくなりすぎて、伐採や剪定をするとの話がありましたが、子どもが悲しまないように適切に管理する必要があると思います。
教育長	瑞鳳小学校での樹木の伐採に対しては、子どもたちが悲しんでいるという内容のメールが届きました。 いろんな理由のもと、学校と教育委員会で相談して伐採したのですが、樹木を大切に思っている子どもたちと、十分な話ができなかったことは残念であったと感じています。 子どもたちが理解した中での教育活動が必要であるため、今後は学校と行政だけでなく、子どもたちとも話をしながら対応していきたい

	と思います。また、業者でないと剪定できない場合もありますので、維持管理の予算化についても目指していきたいと思います。
市長	全国植樹祭の開催地であることを踏まえると、木は大切にしていきたいと考えております。予算化については今後の話になりますが、子どもたちが悲しまないようにしていきたいと思います。 それでは、これをもちまして会議を終了させていただきたいと思います。 新型コロナウイルスに関しましては、今後も油断できない状況にありますので、どうぞ皆さん体調管理にはくれぐれも御留意くださるようお願いいたします。 また、学校での感染症対応等のため、今後もいろいろとお知恵を拝借する場面が多々あるかと思いますが、引き続き御理解と御協力のほど、よろしくお願い致します。 本日は長時間にわたって、御参加をいただき、誠にありがとうございました。